

「平成27年度全国学力・学習状況調査」における

岬町の調査結果概要

平成27年10月

岬町教育委員会

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2. 調査の名称及び実施日

『平成27年度全国学力・学習状況調査』 実施日：平成27年4月21日(火)

3. 調査の対象

小学校第6学年（125名）、 中学校第3学年（148名）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

小学校：国語A・算数A（主として「知識」に関する問題）

国語B・算数B（主として「活用」に関する問題）

理科

中学校：国語A・数学A（主として「知識」に関する問題）

国語B・数学B（主として「活用」に関する問題）

理科

主として「知識」に関する問題

◇身につけておかなければ後の学年に影響を及ぼす内容

◇実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など

主として「活用」に関する問題

◇知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力

◇様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対するアンケート調査

◇学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

学校に対するアンケート調査

◇指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

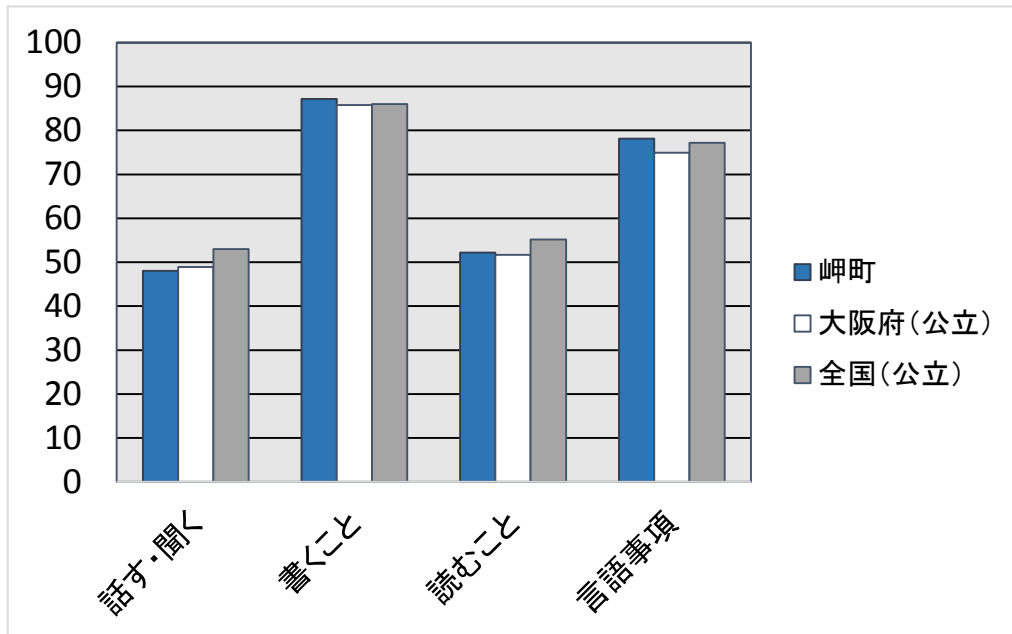
※ 本調査の結果は学力の一部です。

※ 参加児童生徒数は公立小学校 1,060,792 名・公立中学校 1,016,451 名です。

小学校国語A

◇問題数等 国語Aの問題は、主として知識に関する問題で、全部で14問ある。

◇調査結果 学習指導要領の領域別



◀ ◎昨年度に続けての良好・○良好・●課題・★昨年度に続けての課題 ▶

○「伝統的な言語文化（言語事項）」については、70%以上の正答率であり、良好である。

○「書くこと」については、80%以上の正答率であり、良好である。

●「話すこと・聞くこと」については50%以下、「読むこと」については、60%以下の正答率であり、やや課題がある。

◇A区分問題にみえる成果と課題

◎漢字を正しく「読む」「書く」ことについては、平均して85%の正答率があり、概ね良好である。

○文の主語として適切なものを選択することについて、概ね良好である。
(正答率56.0%)

●話の内容に対する聞き方を工夫することについて、やや課題がある。

【例】聞き方の説明として適切なものを選択する（正答率56.0%）

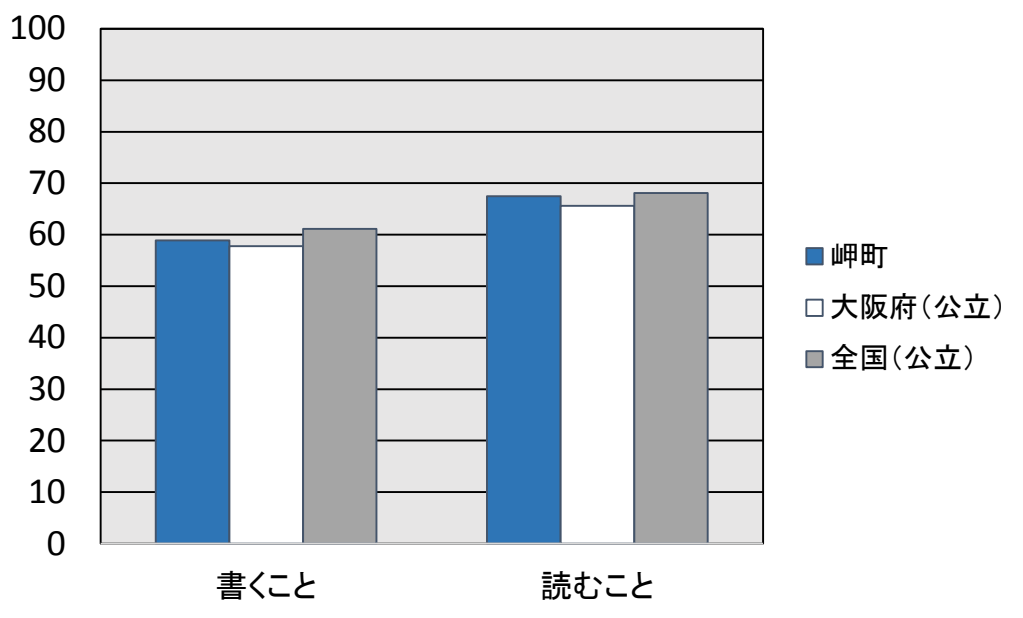
●作品募集の案内の中から、必要な情報を読み取ることについて、課題がある。

【例】応募のきまりを守っていないものを選択する（正答率44.5%）

小学校国語B

◇問題数等 国語Bの問題は、主として活用に関する問題で、全部で9問ある。

◇調査結果 学習指導要領の領域別



◀ ◎昨年度に続けての良好・○良好・●課題・★昨年度に続けての課題 ▶

○「読むこと」については、60%以上の正答率であり、概ね良好である。

●「書くこと」については、60%以下の正答率であり、やや課題がある。

◇B区分問題に見える成果と課題

●目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くことに、特に課題がある。

【例】インタビューの様子の内容をまとめて書く。(正答率 27.2%)

●登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読するときの工夫を考えることにやや課題がある。

【例】文章を声に出して読むときの工夫とその理由を書く。(正答率 59.2%)

○文章と図を関係づけて、自分の考えを書くことについて、概ね良好である。

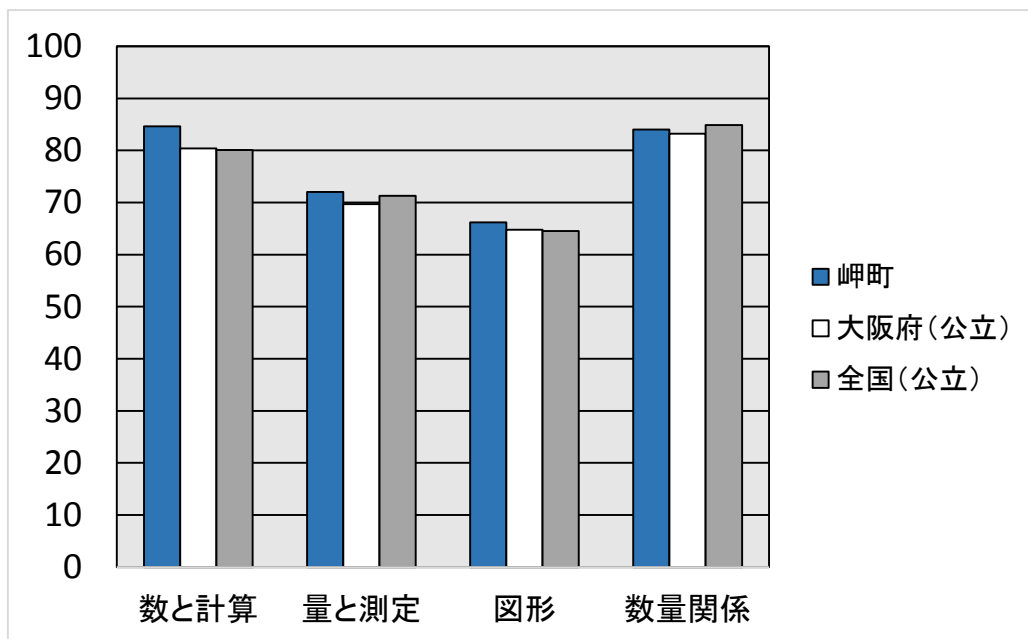
【例】楽器の分担の決め方について、楽器の分担図を基にして書く。(正答率 42.4%)

○目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉えることについて、良好である。(正答率 82.4%)

小学校算数A

◇問題数等 算数Aの問題は、主として知識に関する問題で、全部で16問ある。

◇調査結果 学習指導要領の領域別



◀ ◎昨年度に続けての良好・○良好・●課題・★昨年度に続けての課題 ▶

◎「数と計算」「数量関係」については、80%以上の正答率があり、特に良好である。

○「量と測定」については、70%以上の正答率で良好である。

○「図形」については、60%以上の正答率で概ね良好である。

◇A区分問題にみえる成果と課題

◎基礎・基本の計算力については、ほぼ80~90%以上の正答率であり良好である。

【例】 $28+72$ 、 $5/9-1/4$ 、 $5/6\div7$

○示された三角形が二等辺三角形になる根拠を円の性質と関連付けて判断することについて、概ねできている。(正答率54.4%)

○見取図と展開図を関連付けて、立体図形の辺や面の位置関係を判断することについて、概ねできている。

【例】作成途中の直方体の展開図について、残りの一つの面の長方形の縦と横の辺の長さを書く。(正答率79.2%)

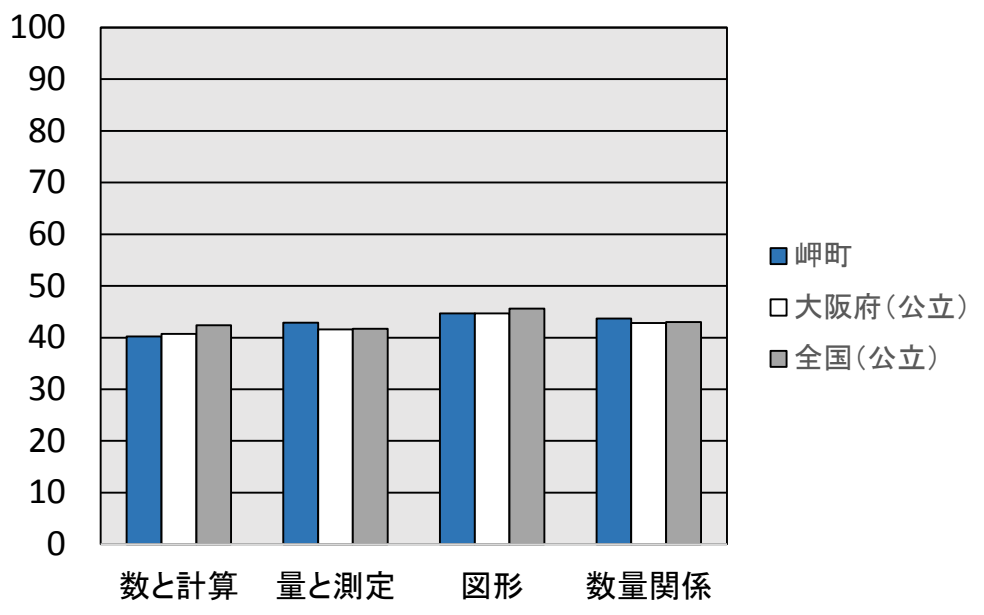
○日常生活の中で必要となる時刻を求めることについて、良好である。

【例】午後3時10分までに図書館に着くために、所要時間の5分と20分を基に、家を出発する時刻を求める。(正答率76.8%)

小学校算数B

◇問題数等 算数Bの問題は、主として活用に関する問題で、全部で13問ある。

◇調査結果 学習指導要領の領域別



◀ ◎昨年度に続けての良好・○良好・●課題・★昨年度に続けての課題 ▶

★「数と計算」については、40%以下の正答率であり、特に課題がある。

○「量と測定」「数量関係」については、40%以上の正答率であり、課題があるが、全国平均を上回っている。

●「図形」については、50%以下の正答率であり、課題がある。

◇ B区分問題にみえる成果と課題

○平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを正しく判断することは、相当数の児童ができています。(正答率 96.0%)

【例】平行四辺形を構成することができる四つの辺の組み合わせを選ぶ

○四捨五入して千の位までのおよその数にして計算することができる。(正答率 60.0%)

●示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見出し、その図形の性質を記述できることに課題がある。(正答率 54.4%)

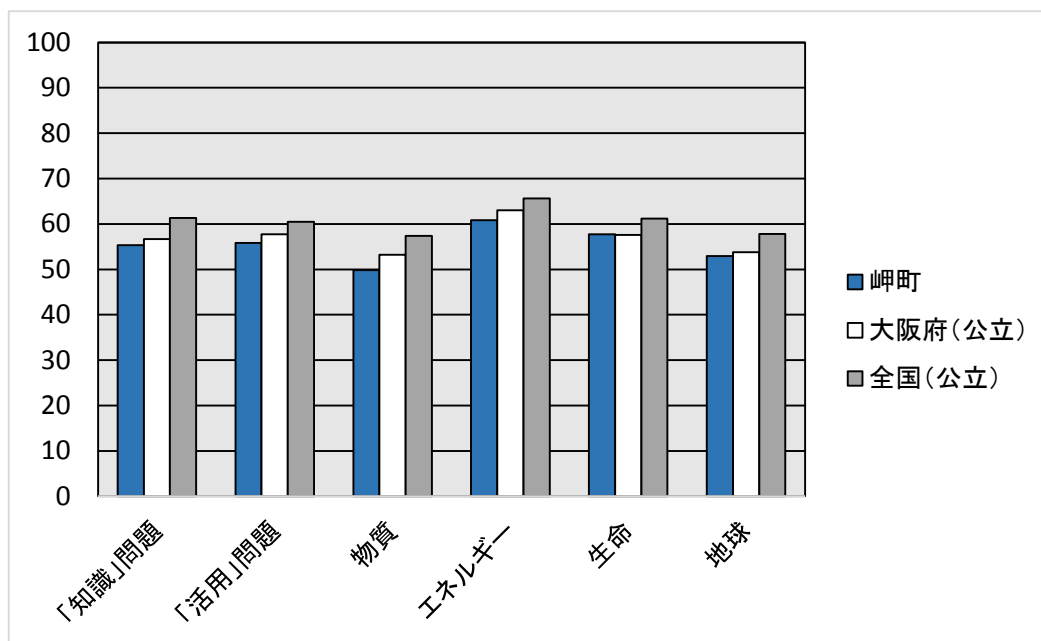
●切り上げた場合の見積もりの結果を基に、目標に達しているかについて判断できることに課題がある。

【例】切り上げて計算した結果が 10000 であることから分かることを選ぶ。
(正答率 19.0%)

小学校理科

◇問題数等 理科の問題は全部で24問ある。

◇調査結果 「知識」「活用」及び学習指導要領の分野別



◀ ◎昨年度に続けての良好・○良好・●課題・★昨年度に続けての課題 ▶

- 全体的に正答率については低下傾向であり、課題がある。
- 「物質」については、50%以下の正答率であり、課題がある。
- 「エネルギー」については、60%程度の正答率であり、やや課題がある。
- 「地球」については、50%程度の正答率であり、課題がある。
- 「生命」については、60%以下の正答率であり、やや課題があるが、府平均をやや上回っている。

◇理科問題にみえる成果と課題

○電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に自分の考えを改善できることについて、良好である。(正答率75.2%)

○顕微鏡の名称を理解していることについて、概ね理解できている。(正答率69.6%)

●観察、実験の器具について、その名称などに関する知識の定着に、特に課題がある。

【例】メスシリンダーの名称を書く。(正答率32.0%)

●振り子運動の規則性を振り子時計の調節の仕方に適用することに課題がある。(正答率47.2%)

●植物の成長の様子と日光の当たり方を適用して考察することに、課題がある。

【例】インゲンマメとヒマワリの成長の様子などから適した栽培場所を選び、理由を書く。(正答率34.4%)

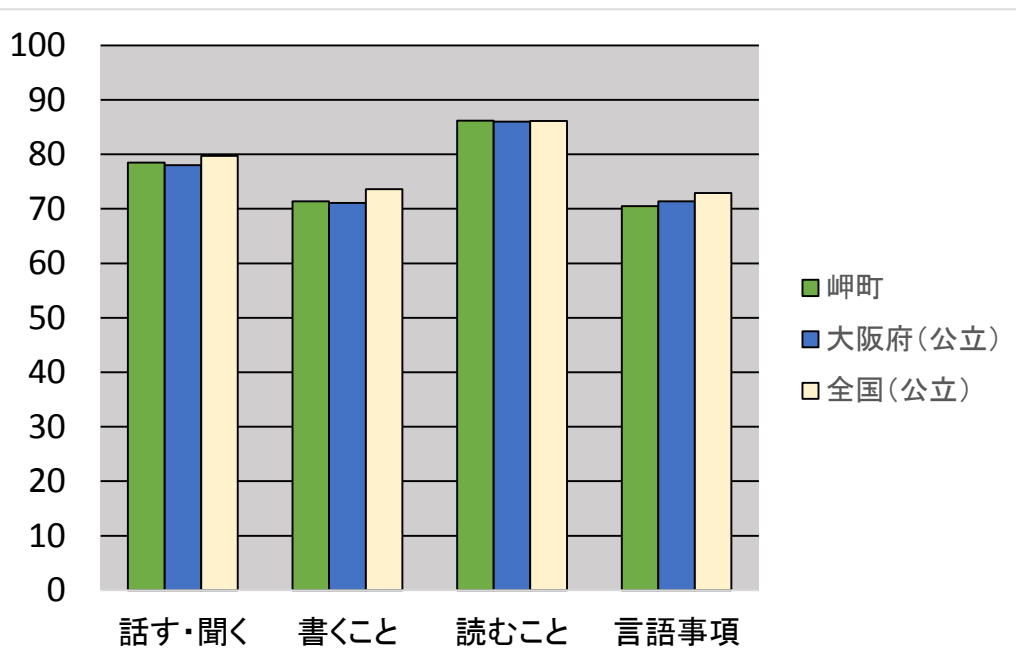
平成27年度 全国学力・学習状況調査 報告

平成27年10月

中学校国語A

◇問題数等 国語Aの問題は、主として知識に関する問題で、全部で33問ある。

◇調査結果 学習指導要領の領域別



◀ ◎昨年度に続けての良好・○良好・●課題・★昨年度に続けての課題 ▶

●「書くこと」「伝統的な言語文化（言語事項）」については、70%以上の正答率で良好であるが、全国・府の正答率を下回っている。

○「読むこと」については、80%以上の正答率であり、特に良好である。

○「話すこと・聞くこと」については、80%近い正答率であり、良好である。

◇A区分問題にみえる成果と課題

○登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解することについては、相当数の生徒ができています。

【例】登場人物の行動の理由として適切なものを選択する。（正答率91.2%）

◎語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことについて、良好である。

【例】適切な語句を選択する。（将来は、気象予報士になりたい）（正答率100%）

●手紙の書き方を理解して書くことに課題がある。

【例】手紙の後付けの直し方とその理由として適切なものを選択する。

（正答率46.6%）

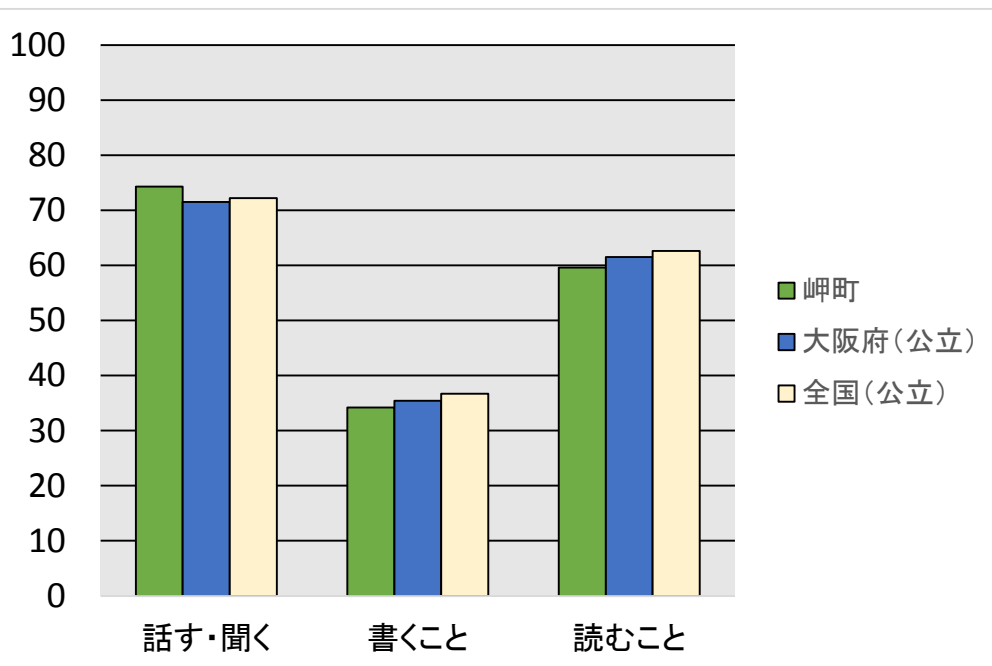
平成27年度 全国学力・学習状況調査 報告

平成27年10月

中学校国語B

◇問題数等 国語Bの問題は、主として活用に関する問題で、全部で9問ある。

◇調査結果 学習指導要領の領域別 (「話すこと・聞くこと」に関する出題なし)



◀ ◎昨年度に続けての良好・○良好・●課題・★昨年度に続けての課題 ▶

●「読むこと」については、60%以下の正答率であり、やや課題がある。

★「書くこと」については、40%以下の正答率であり、特に課題が大きい。

○「話すこと・聞くこと」については、70%以上の正答率であり、良好である。

◇B区分問題にみえる成果と課題

○ 状況に応じて、資料を活用して話すことについて、良好である。(正答率 76.4%)

【例】ノートとその他の情報を役立てられる場合として適切なものを選択する。

○ 資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に話すことについて、概ね良好である。(正答率 60.1%)

【例】演奏するタイミングを選択し、その理由をノートの内容と結び付けて書く。

○ 表現の工夫について自分の考えをもつことについて、良好である。(正答率 89.9%)

【例】「お泣きなさるな」という翻訳の効果として適切なものを選択する。

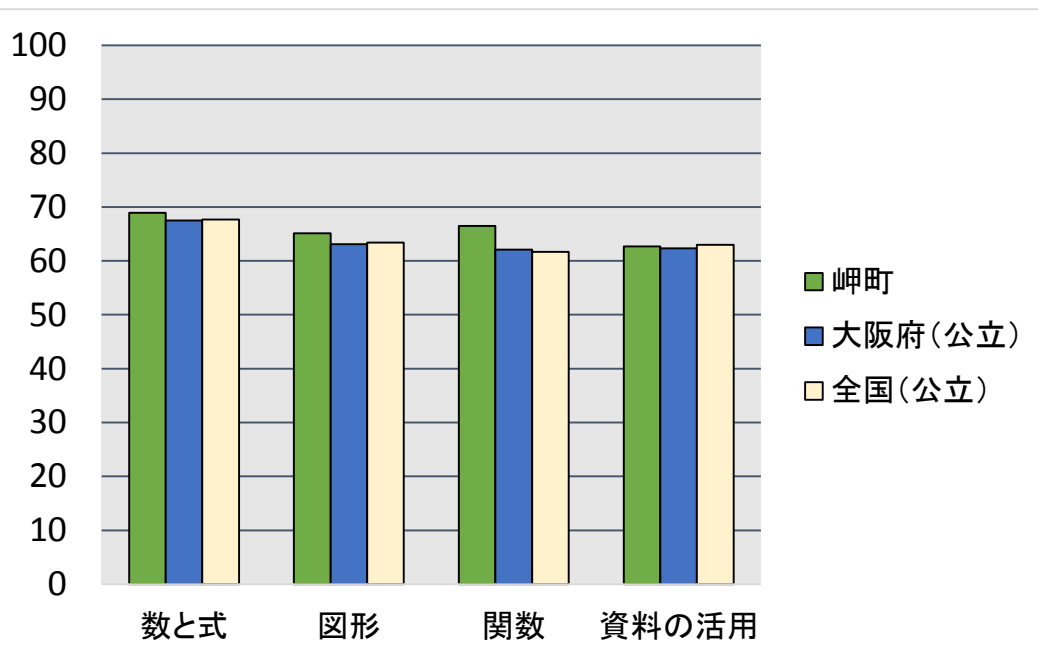
● 文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くことに、特に課題が大きい。

【例】文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く。(正答率 19.6%)

中学校数学A

◇問題数等 数学Aの問題は、主として知識に関する問題で、全部で36問ある。

◇調査結果 学習指導要領の領域別



◀ ◎昨年度に続けての良好・○良好・●課題・★昨年度に続けての課題 ▶

- 「数と式」については、70%近い正答率であり、概ね良好である。
- 「図形」「資料の活用」については、60%以上の正答率であり、概ね良好である。
- 「関数」については、60%以上の正答率であり、授業改善の成果がみられる。

◇ A区分問題にみえる成果と課題

◎『数と式』比の意味を理解していることについて、加減乗除を含む正の数と負の数の計算について、良好である。

【例】 $12:9$ と等しい比を選ぶ (正答率 99.3%) 【例】 $12-2 \times (-6)$ (正答率 84.5%)

●文字を用いた式の計算について、課題がある。

○一次方程式を解くことができることについて、良好である。(正答率 83.1%)

【例】 $1.2x-6=0.5x+1$ を解く

○時間と道のりの関係を表すグラフから、与えられた時間における道のりを読み取ることができることについて、理解できている。(正答率 91.9%)

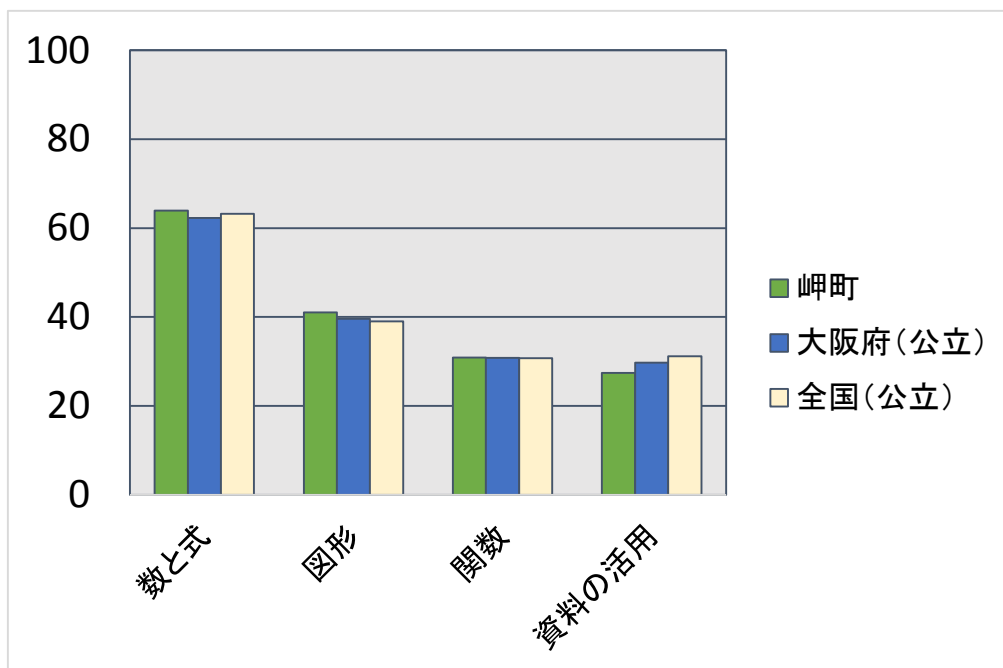
【例】出発してから15分後にいる地点までの家からの道のりを求める。

●与えられた資料から中央値を求めることができることについて(資料の活用等)、課題がある。【例】反復横とびの記録の中央値を求める。(正答率 41.9%)

中学校数学B

◇問題数等 数学Bの問題は、主として活用に関する問題で、全部で15問ある。

◇調査結果 学習指導要領の領域別



◀ ◎昨年度に続けての良好・○良好・●課題・★昨年度に続けての課題 ▶

○「数と式」については、60%以上の正答率であり、概ね良好である。

○「図形」については、40%以上の正答率であり、概ね良好である。

★「資料の活用」においては、30%以下の正答率であり、課題がある。

◇B区分問題にみえる成果と課題

○問題場面における考察の対象を明確に捉えることについて、良好である。

【例】連続する3つの整数が、19.20.21のとき、それらの和が中央の整数の3倍になるかどうかを確かめる式を書く。(正答率85.1%)

●資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに、課題がある。

【例】2回目の調査の方が落し物の状況がよくなったとは言い切れないと主張することもできる理由を、グラフを基に説明する。(正答率16.2%)

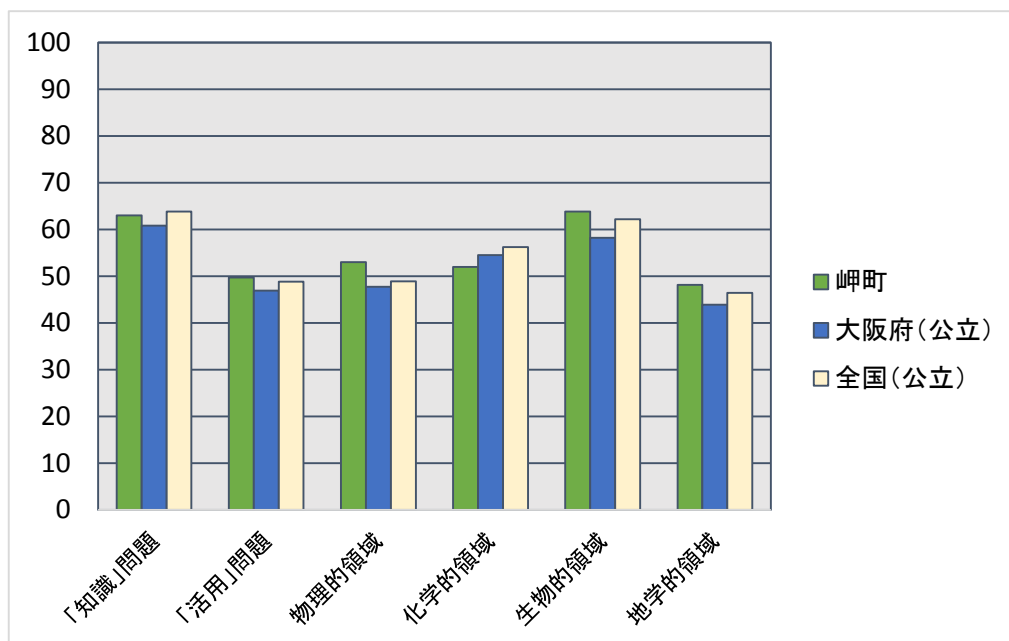
●与えられた式を基に、事象における2つの数量の関係が比例であることを判断することに、課題がある。

【例】中心角の大きさxと半径の長さyの間にある関係について、正しい記述を選ぶ。(正答率40.5%)

中学校理科

◇問題数等 理科の問題は、全部で25問ある。

◇調査結果 「知識」「活用」及び学習指導要領の分野別



◀ ◎昨年度に続けての良好・○良好・●課題・★昨年度に続けての課題 ▶

○全体的に、正答率については、全国・府を上回っており、良好である。

●「物理」については、50%程度の正答率であり、やや課題があるが、全国の正答率を上回っている。

●「化学」については50%程度であり、やや課題がある。府正答率を下回っているの
で、改善が必要である。

●「地学」については、50%以下の正答率であり、課題がある。

●「生物」については、60%程度の正答率であり、やや課題がある。

◇理科問題にみえる成果と課題

●知識と実験の結果を関係付けて分析して解釈することに課題がある。

【例】同じ量の水に同じ量の炭酸水素ナトリウムと硝酸ナトリウムをそれぞれ加えたとき、どちらが炭酸水素ナトリウムであるかを選ぶ。(正答率28.2%)

【例】塩化ナトリウムを化学式で表すことができる。(正答率68.5%)

○技術の仕組みを示す場面において、スイッチの入り切りによる磁界の変化を説明することについて、概ね良好である。

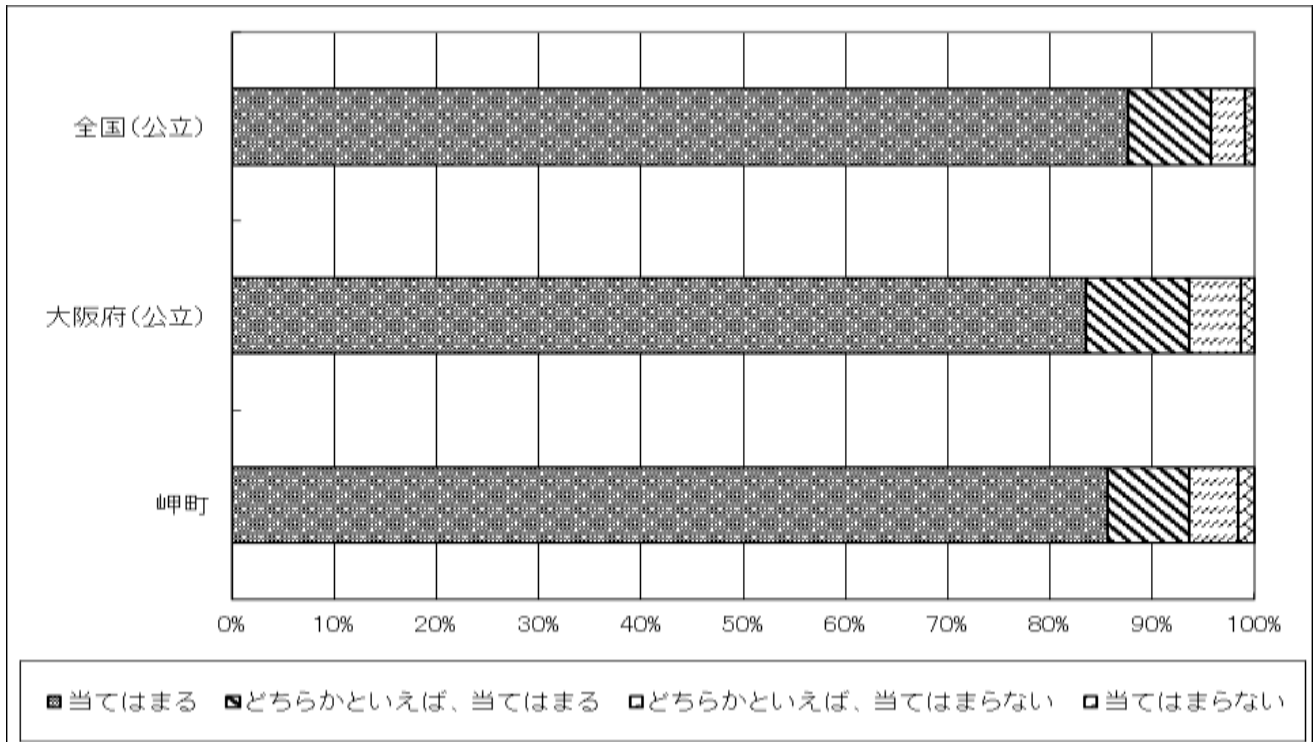
【例】電磁石を動かさず、スイッチを入れたり切ったりすると、検流計の針が振れる理由を「磁界」という言葉を使って説明する。(正答率67.8%)

岬町の子どもたちの生活の様子

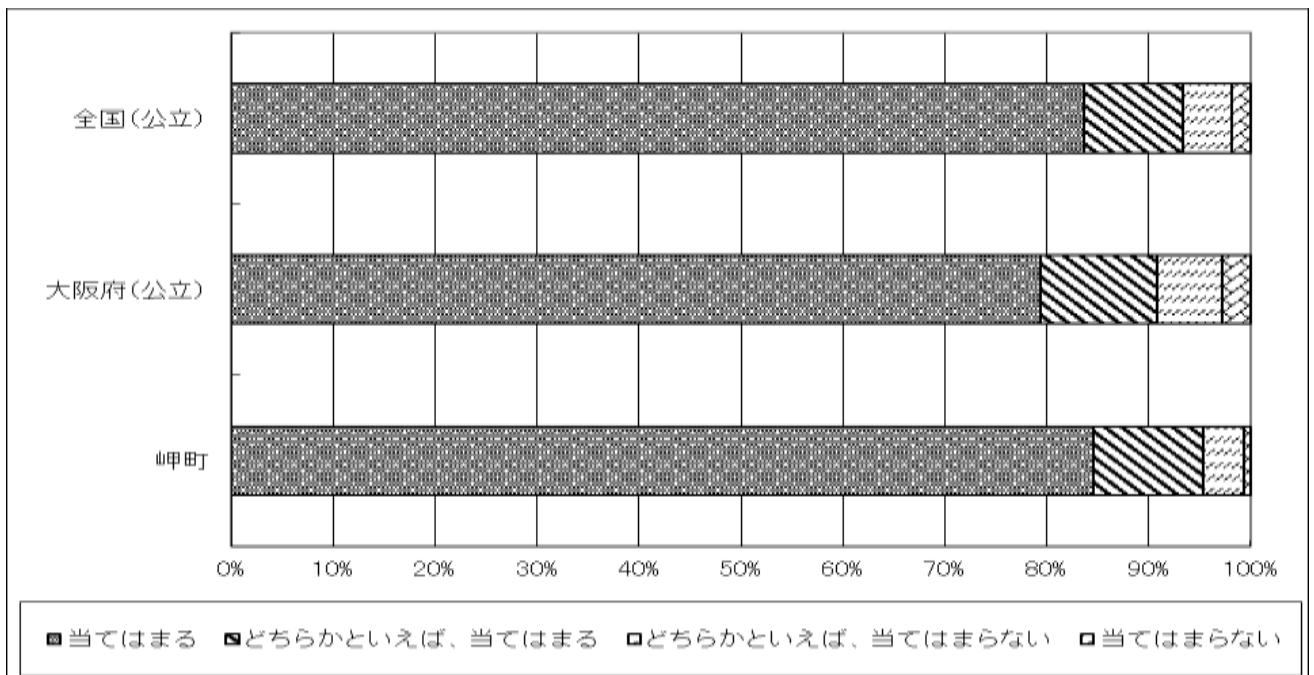
(小学校・中学校)

—児童・生徒質問紙より—

1, 朝ごはんを毎日食べていますか（小学校）

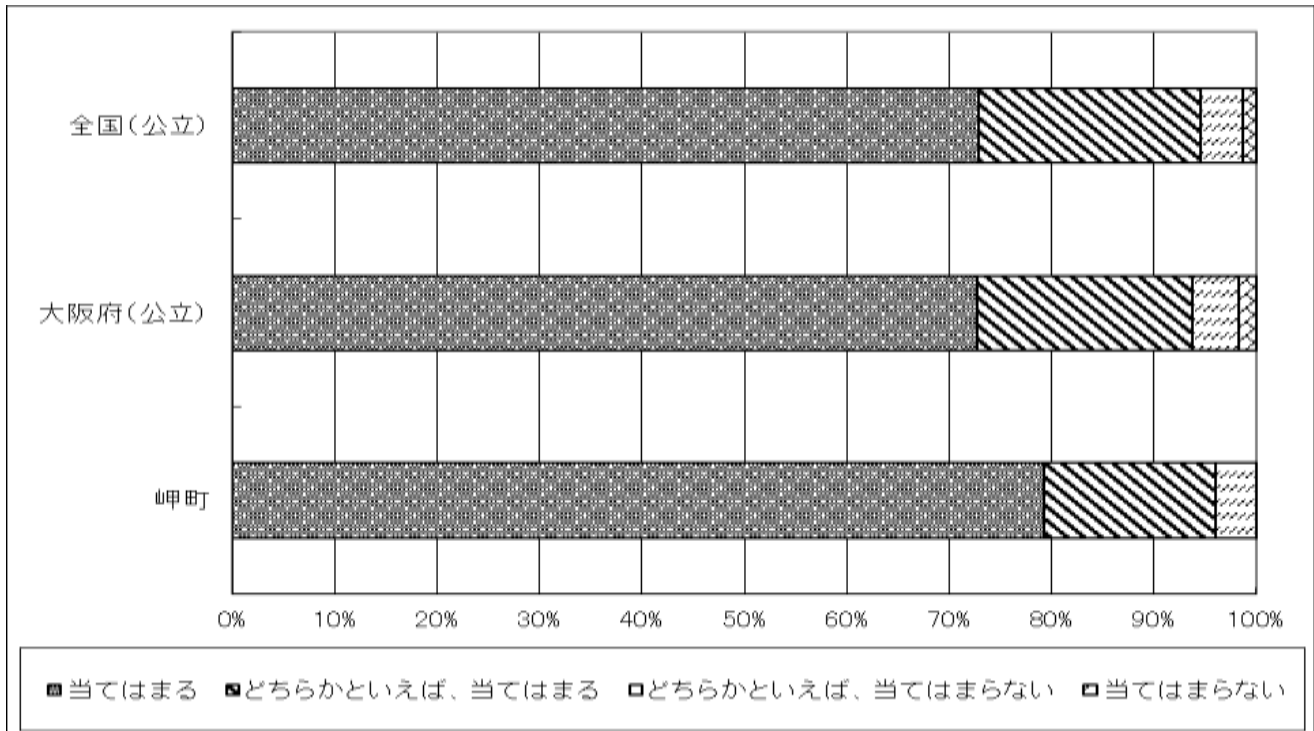


1, 朝ごはんを毎日食べていますか（中学校）

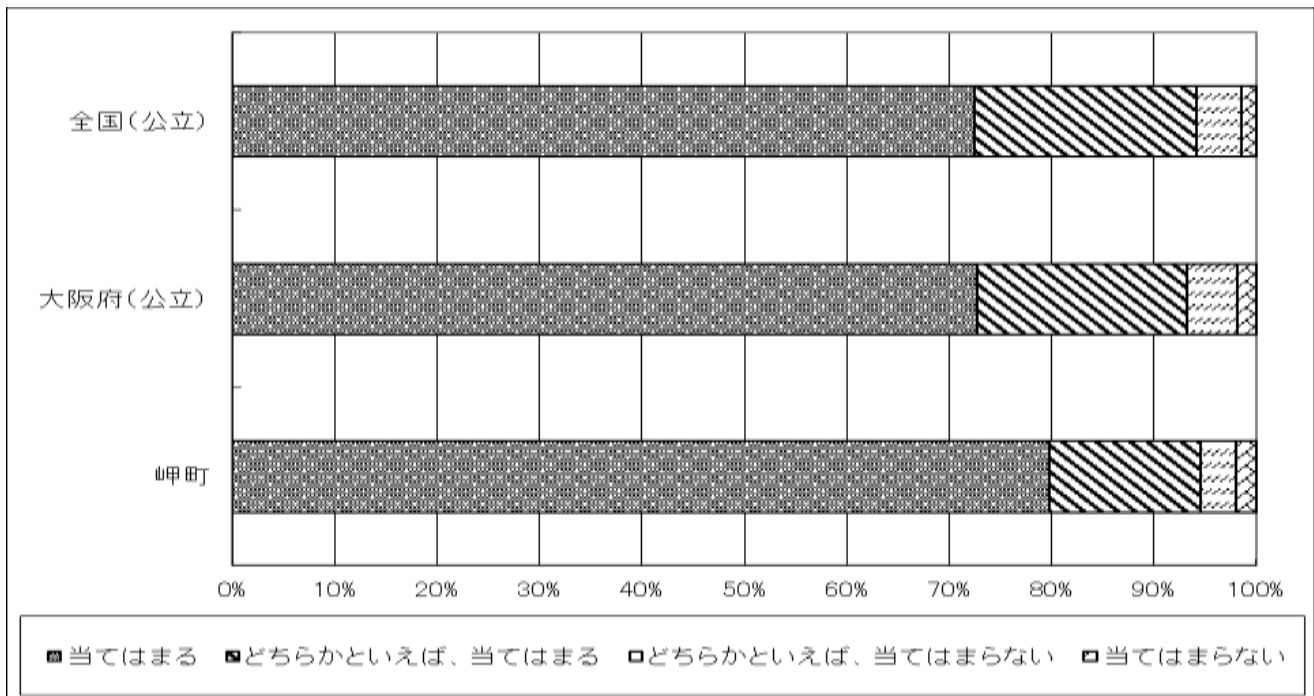


- ◎ 「している」「どちらかといえばしている」割合は、小中学校ともに90%を超えている。
- 「していない」「どちらかといえばしていない」の児童・生徒について、今後とも状況を把握し家庭に対して丁寧な働きかけを続けていく必要がある。

2, ものごとを最後までやり遂げて, うれしかったことがありますか（小学校）

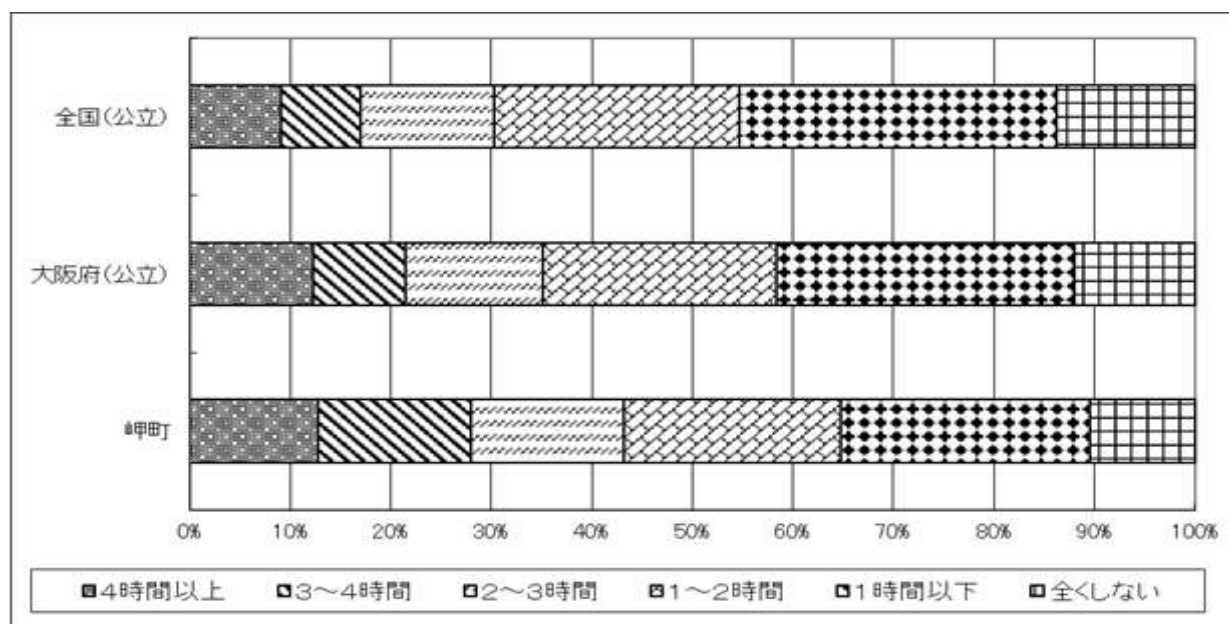


2, ものごとを最後までやり遂げて, うれしかったことがありますか（中学校）

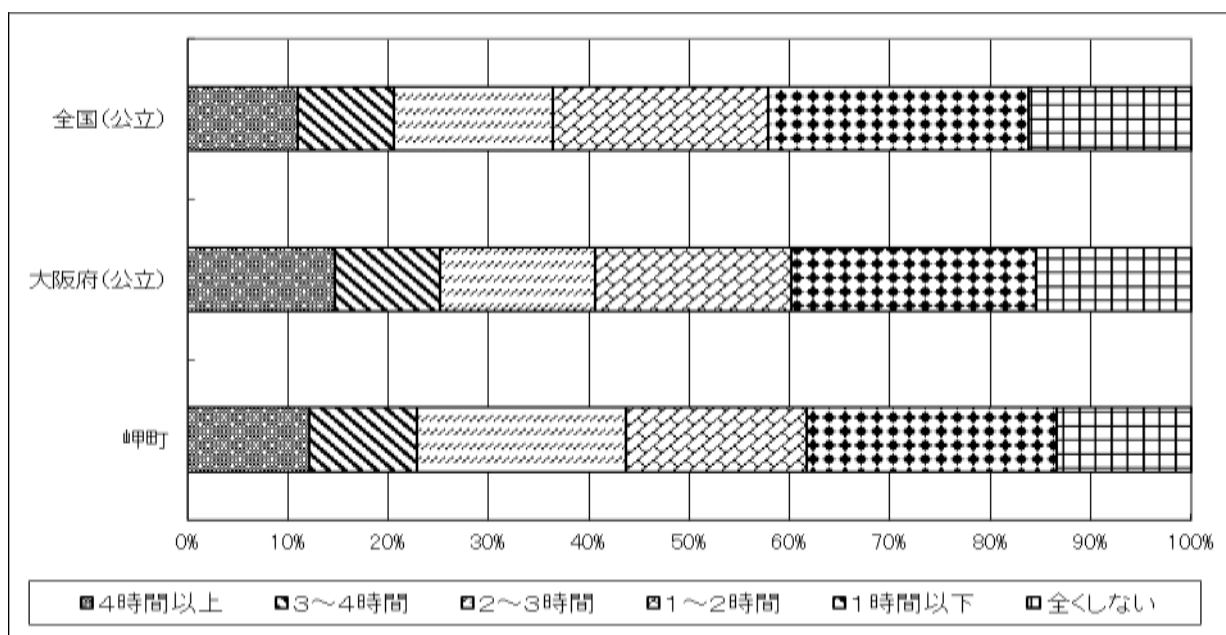


- ◎「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」割合は、小中学校ともに95%を超えている。
- ◎中学校では、昨年度と比較しても割合が上昇している。今後とも達成感を得られ、意欲がわいてくる取り組みを継続的に実施していく必要がある。

3, ふだん1日どれくらいの時間ゲーム（スマホ含）をしますか（小学校）

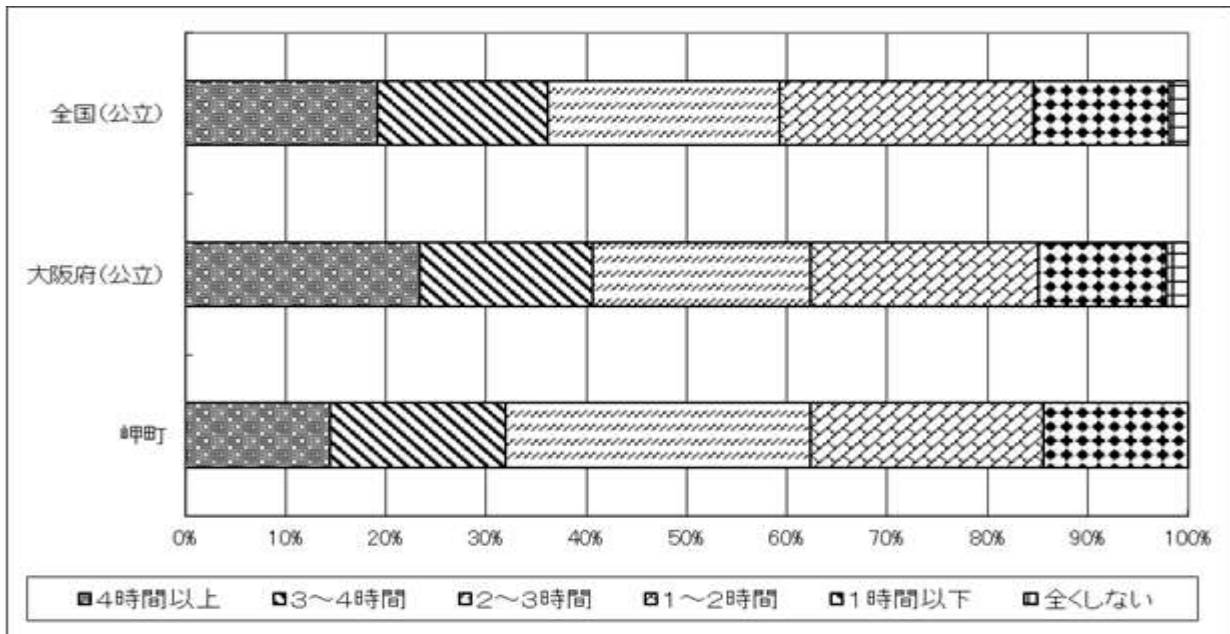


3, ふだん1日どれくらいの時間ゲーム（スマホ含）をしますか（中学校）

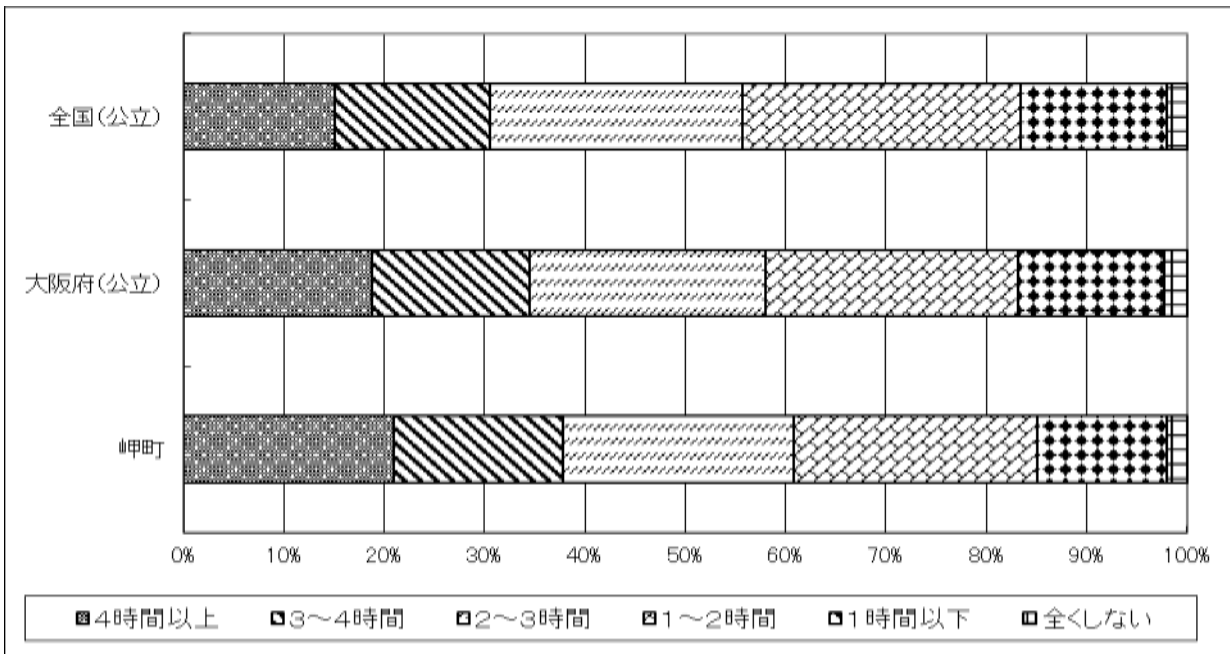


- 1時間以上使用している割合が、小学校中学校ともに増加傾向である。今後、スマートフォンやゲームなどに依存していく可能性があることから、家庭と連携しながら取り組みを進めていく。
- 携帯電話やスマートフォンでの通話やメールやインターネットの使用時間においても増加傾向にある。使い方やモラルなどについて、今後取り組んでいく必要がある。

4、ふだん1日どれくらいの時間テレビ・DVD等を見聞きしますか（小学校）



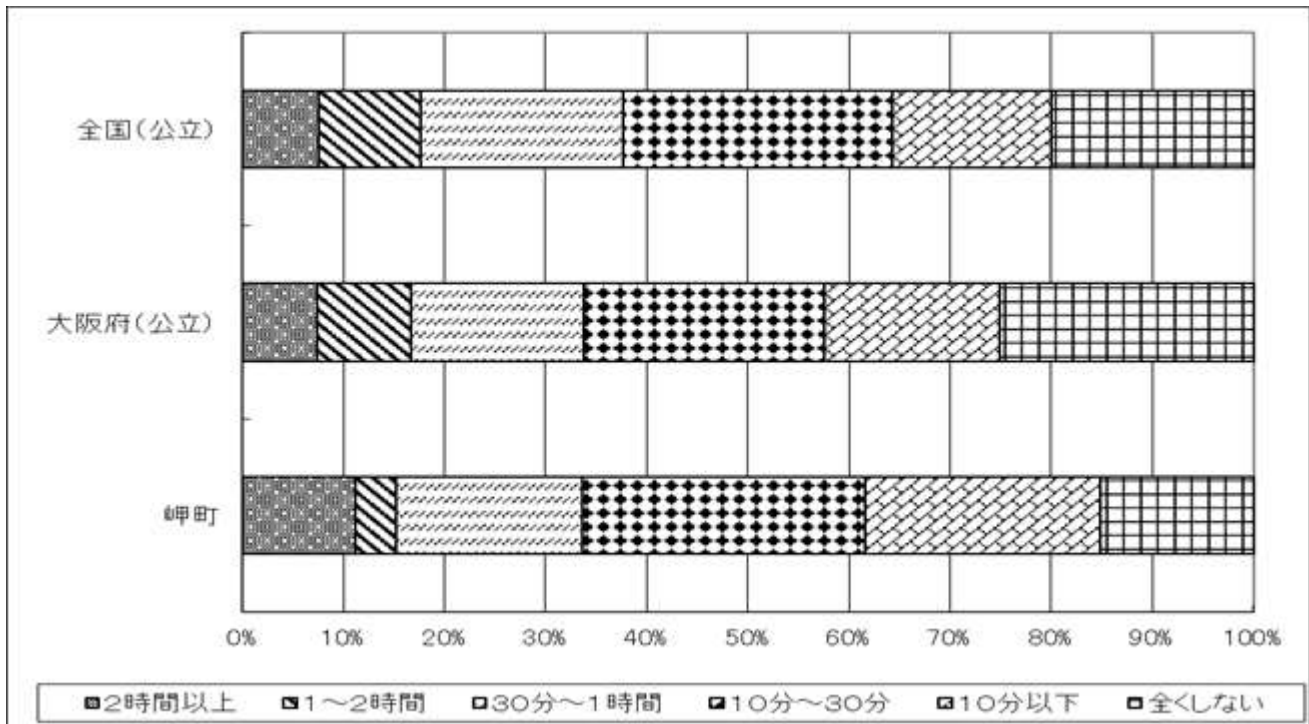
4、ふだん1日どれくらいの時間テレビ・DVD等を見聞きしますか（中学校）



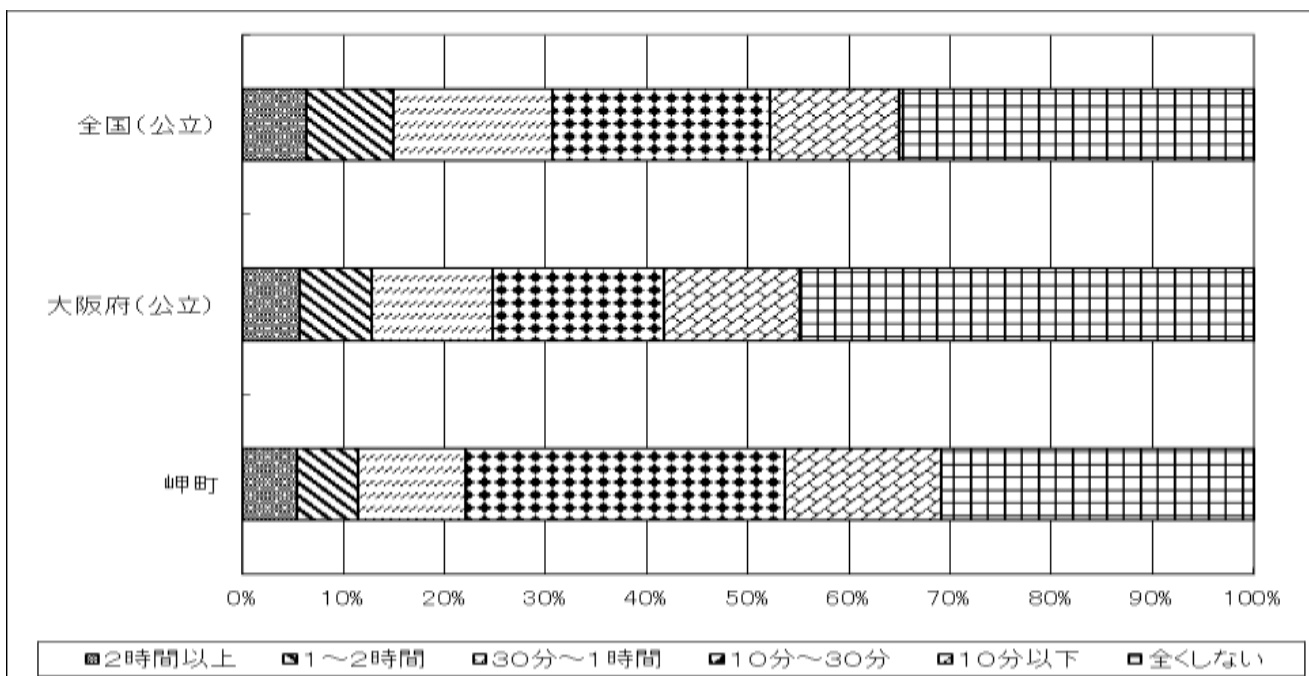
○前年度と比較して、4時間以上見たり聞いたりしている割合は、小学校では減少している。今後も家庭と連携しながら進めていく。

●中学校においては、前年度と比較して、3～4時間以上見たり聞いたりしている割合が11.3%増加している。テレビに依存しない環境づくりについて、今後も家庭と連携しながら進めていく。

5. ふだん1日あたりどのくらい家や図書館で読書をしますか（小学校）



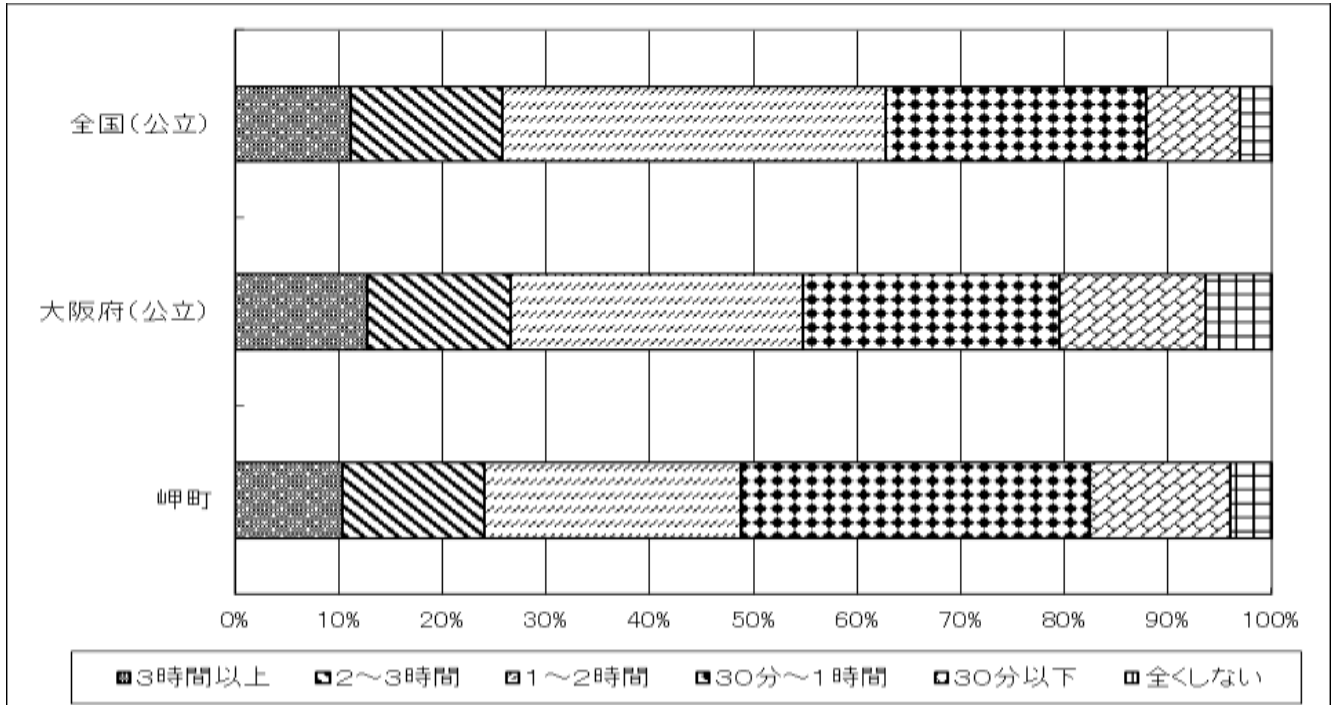
5. ふだん1日あたりどのくらい家や図書館で読書をしますか（中学校）



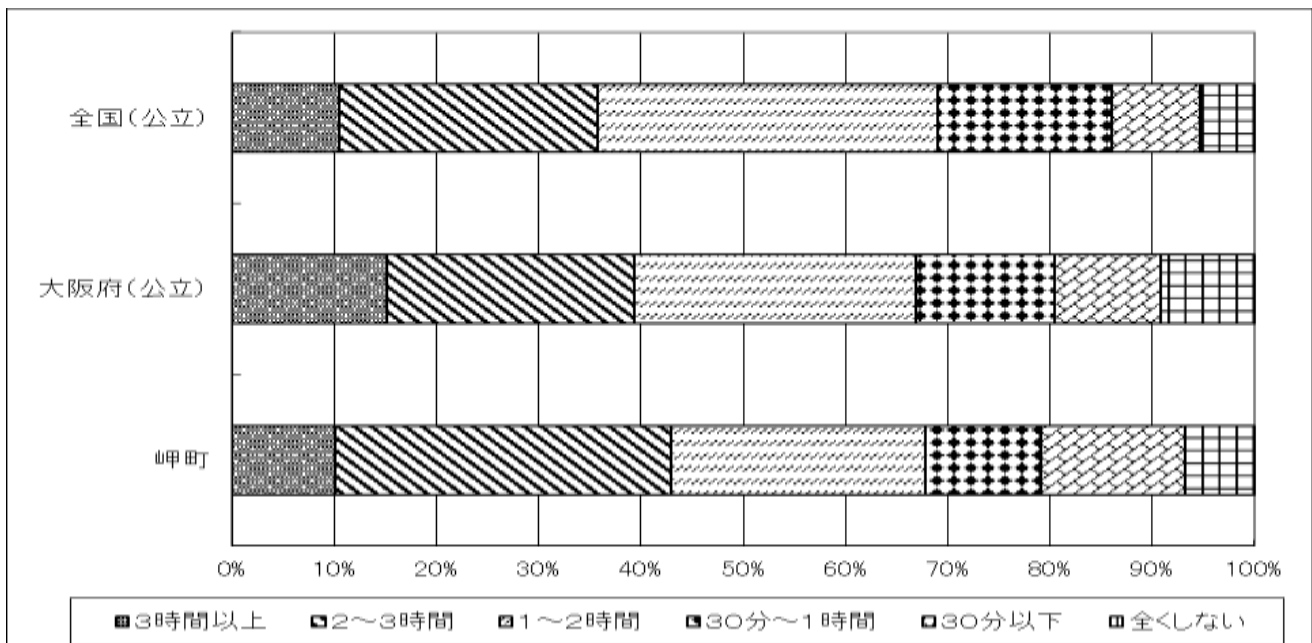
○小学校において、1日のうち30分以上読書している子どもの割合は、前年度と比較して5.9%増加し、やや回復傾向にある。

●中学校において、1日のうち30分以上読書している子どもの割合は、前年度と比較して6.3%減少し、各校における読書週間の確立が課題である。

6, 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）（小学校）

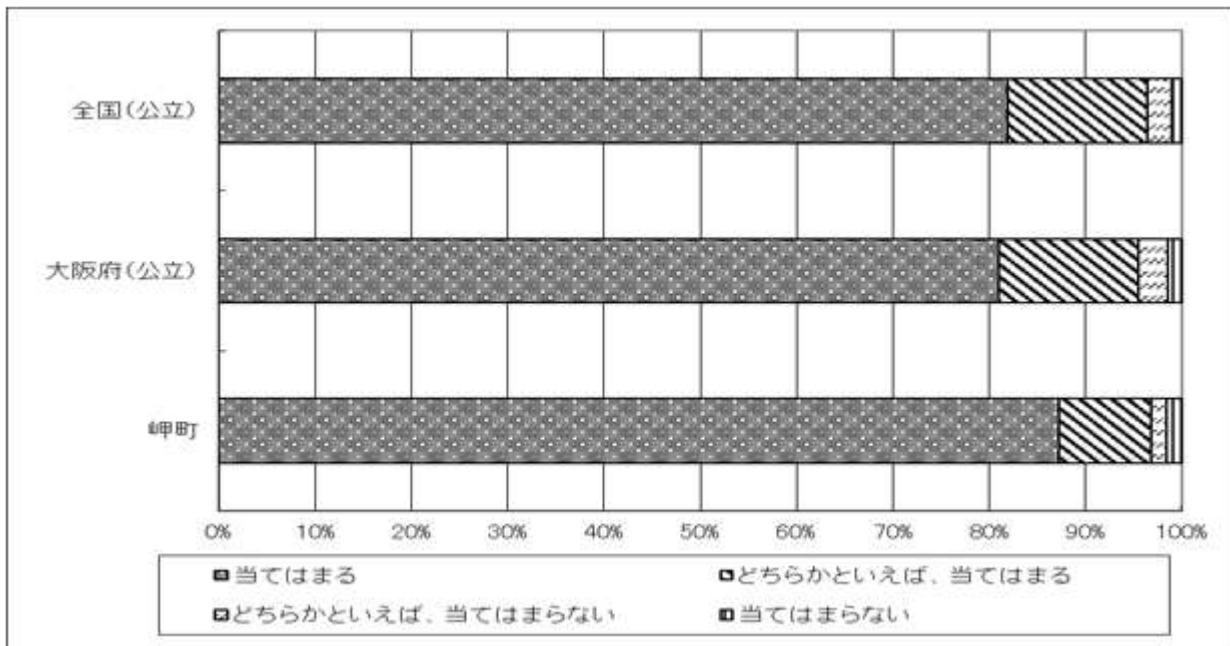


6, 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）（中学校）

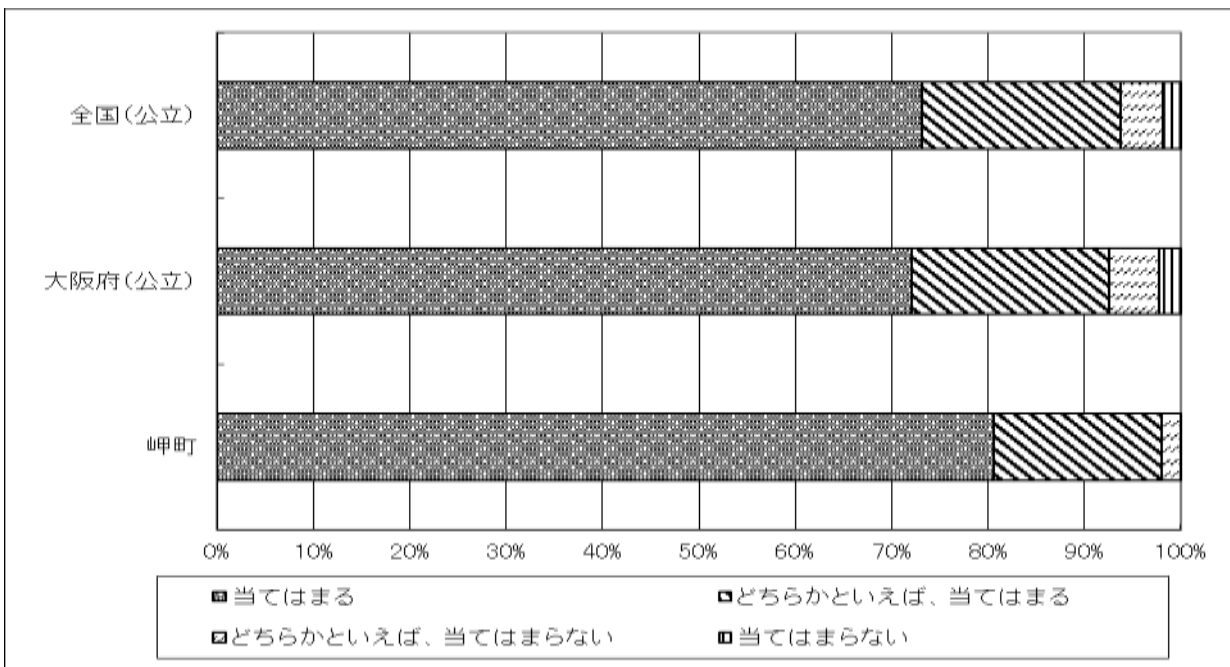


- 前年度と比較して、2時間以上勉強している割合は、小学校では11%、中学校では5.2%減少している。
- 小学校の「30分～1時間」割合が増加傾向にある。学習習慣の確立について、今後とも取り組みを進める。

7, いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う（小学校）

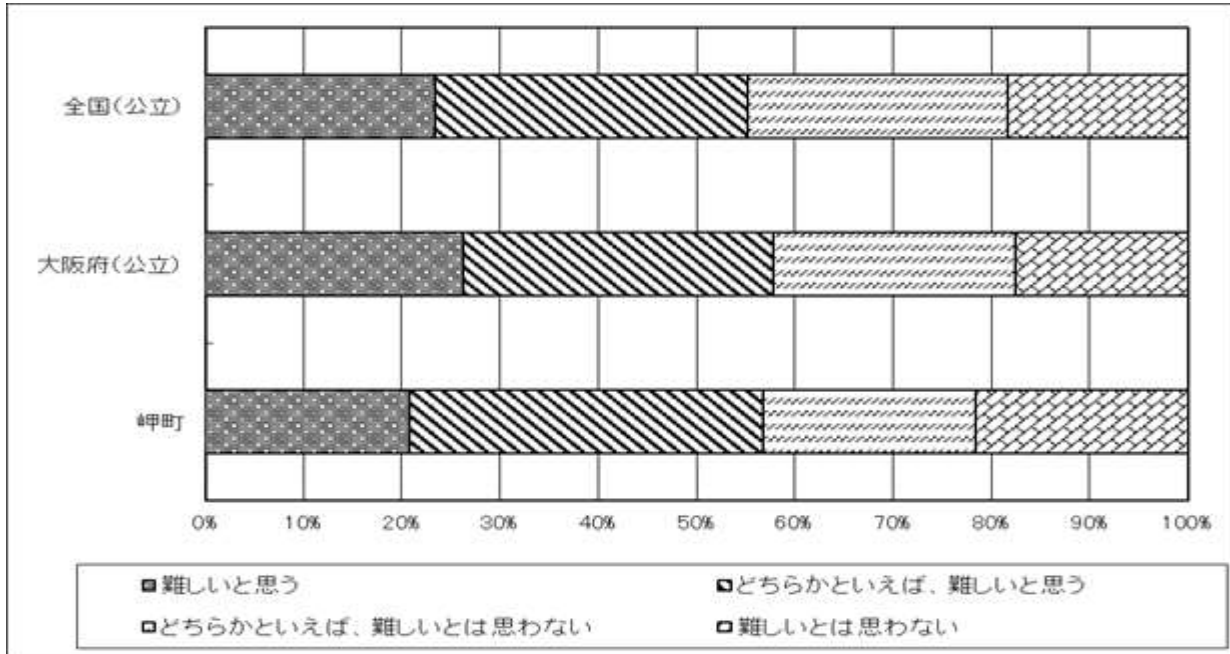


7, いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う（中学校）

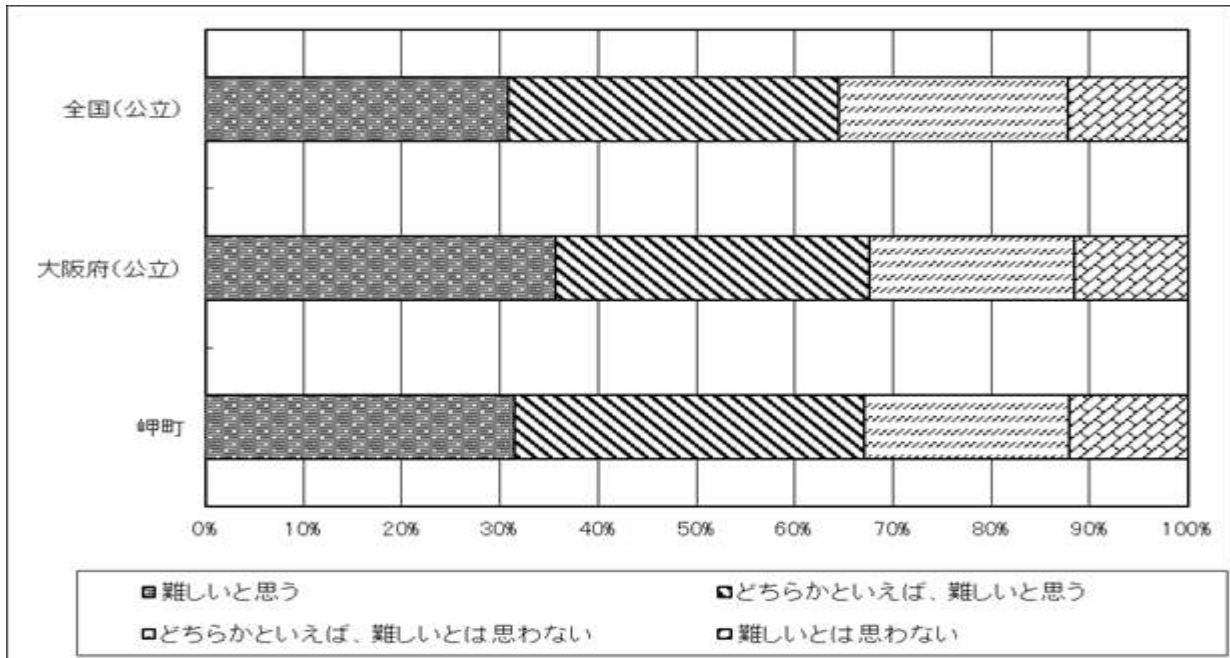


- 「当てはまる」割合は、中学校では80.5%であり、前年度と比較して6.0%増加している。今後ともいじめ問題を含む人権教育・道徳教育の取り組みを一層進めていく必要がある。
- 「当てはまる」割合は、小学校では87.2%であるが、昨年度よりも6.2%増加しており、各校においていじめ問題を含む人権教育・道徳教育の取り組みを一層進めていく必要がある。

8, 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか（小学校）



8, 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか（中学校）



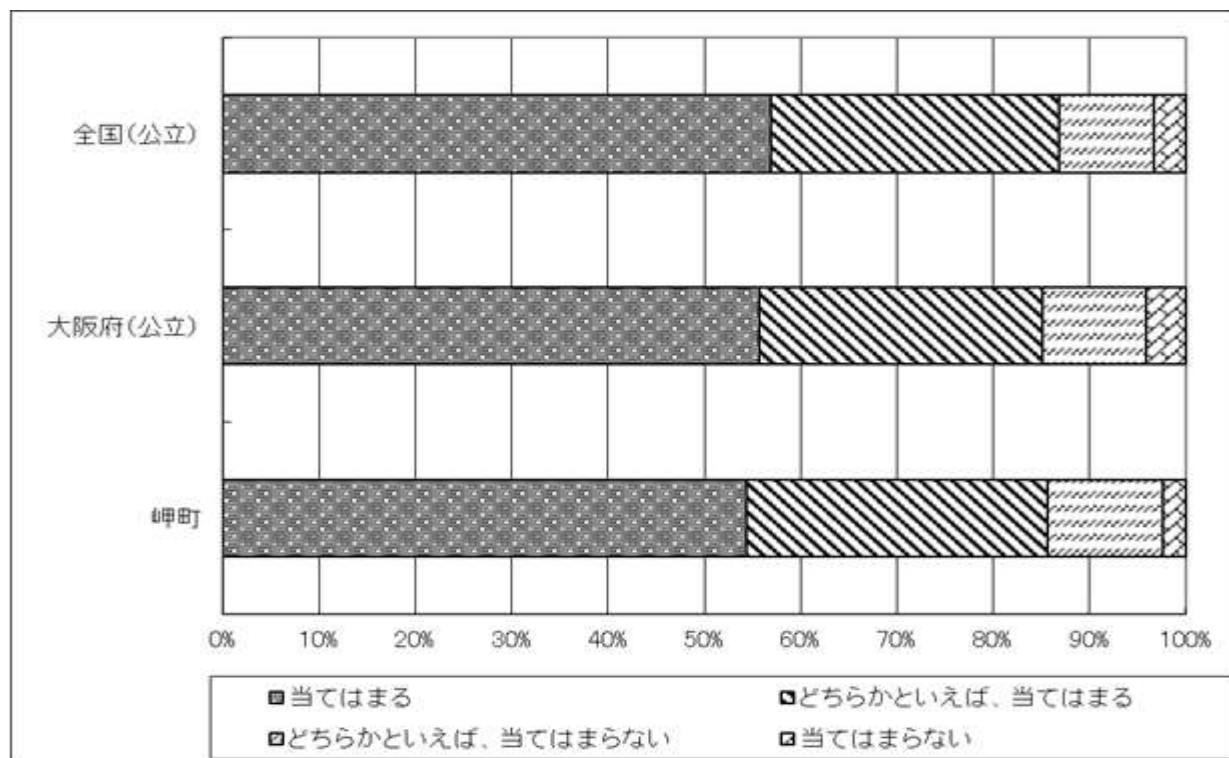
○中学校では「難しいとは思う」「どちらかといえば、難しいと思う」の割合は65.

1%で昨年度より11.6%減少しているが、継続して授業改善を進めていく必要がある。

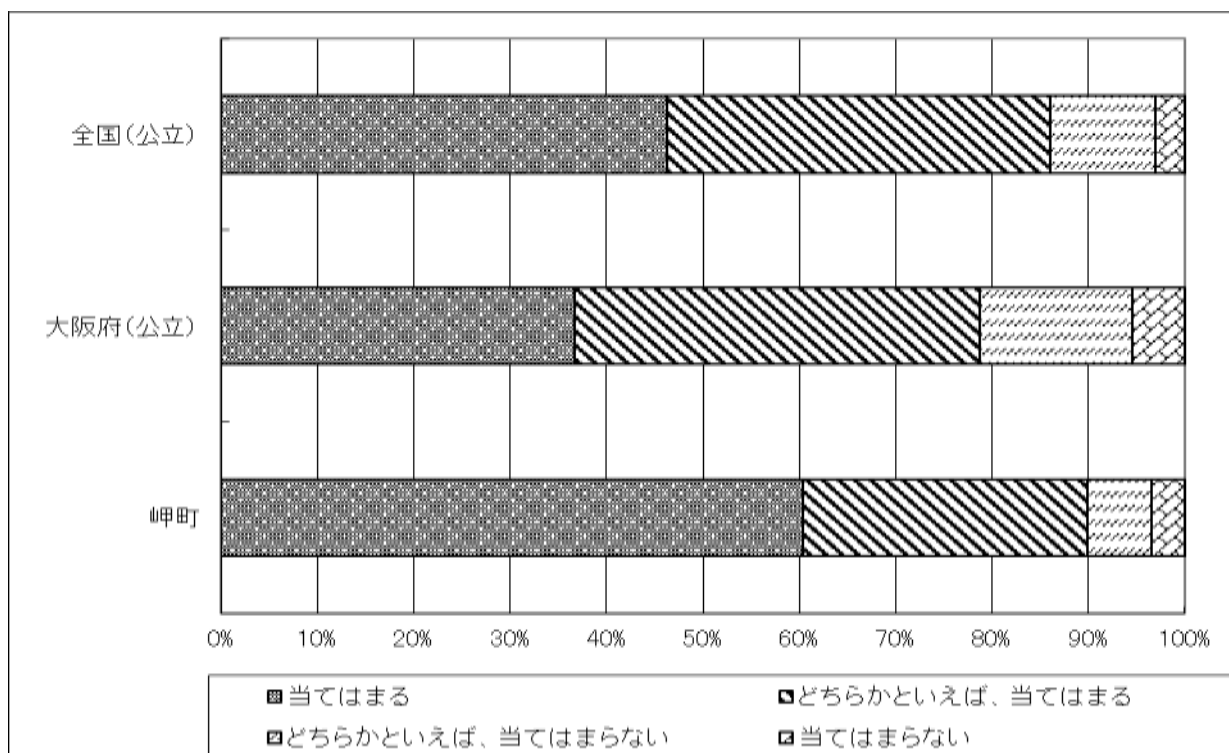
●小学校において「難しいとは思う」「どちらかといえば、難しいと思う」の割合は

56.8%で昨年度と比較して減少しており、今後とも授業改善を進めていく必要がある。

9, 普段の授業では、自分の考えを発表する機会がよくある（小学校）



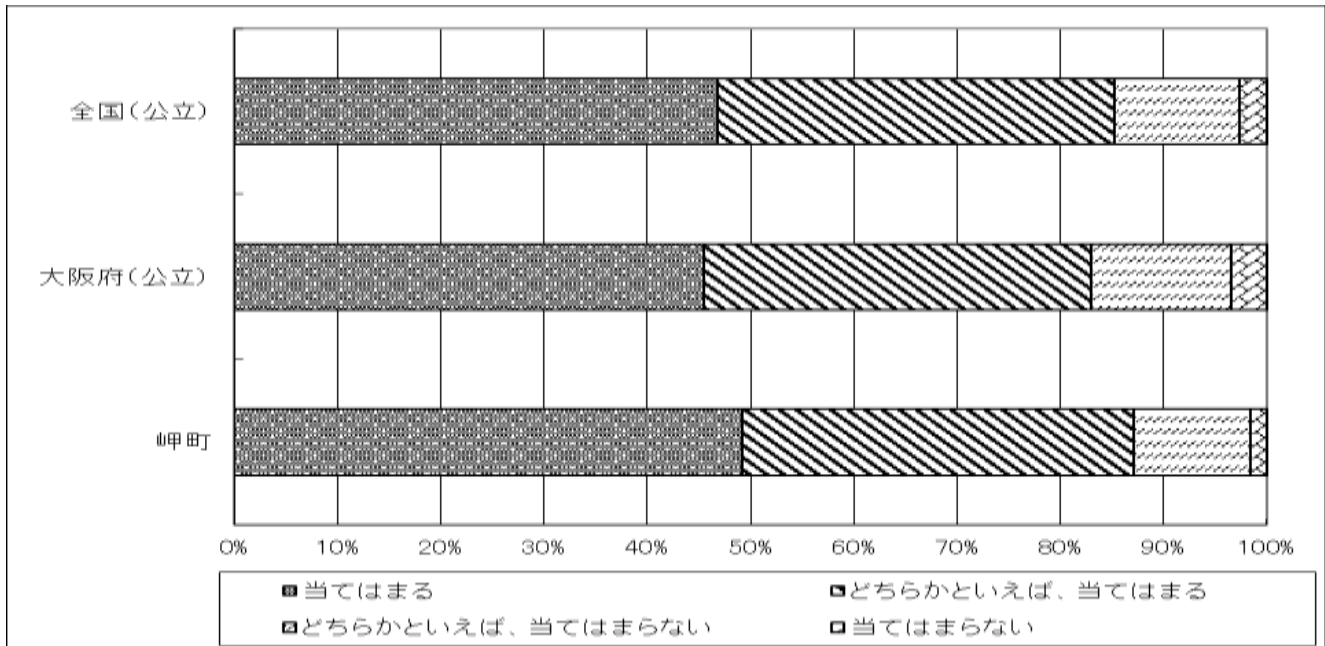
9, 普段の授業では、自分の考えを発表する機会がよくある（中学校）



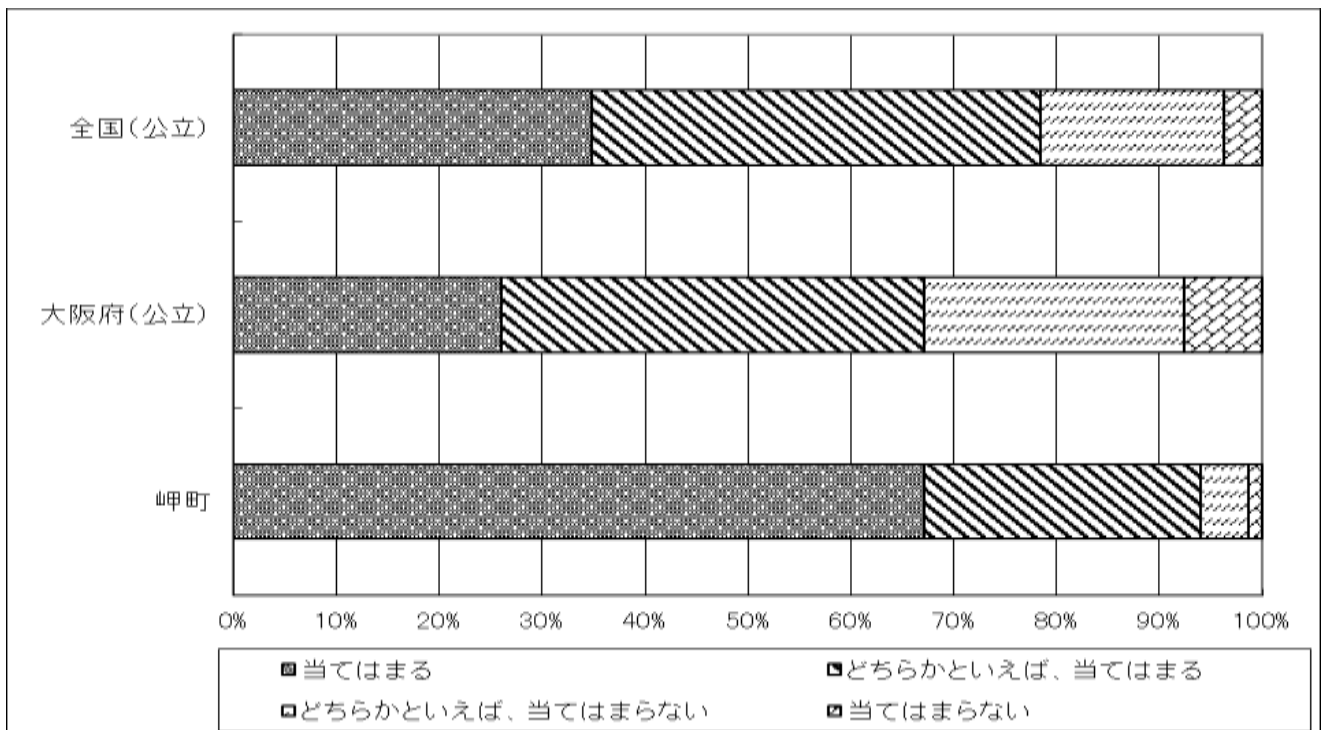
○小学校において「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」割合が85.6%で昨年度と比較して増加しており、今後ともより一層の授業改善に取り組む必要がある。

○中学校において「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」割合が89.5%であり、昨年度と比較して減少しているが、子どもたちの意見表明をおこなう機会が保障されている。

10、 普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っている
 と思いますか（小学校）



10、 普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っている
 と思いますか（中学校）



○小学校において「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」割合が86.4%であり、年々増加している。今後より一層の授業改善に取り組む必要がある。

◎中学校において「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」割合が93.9%であり、前年度と同様高く、言語活動が盛んにおこなわれているといえる。